



Stain Crete X

株式会社三豊工業

本 社 : 〒421-0121 静岡県静岡市駿河区広野3-24-4
TEL 054-257-1377 FAX 054-257-2106

岡山営業所 : 〒700-0975 岡山県岡山市北区今3-9-11 共同ビル2F
TEL 086-239-9037 FAX 086-239-9038

四国営業所 : 〒779-4809 徳島県三好市井川町吉岡127-3
TEL 0883-76-3077

Stain Crete X

『化学反応でコンクリートを「染める」、
半透明でムラのある深い色合いの仕上がり』

■ ステインクリート X

ステインクリートXはコンクリートやモルタル等のセメント系材に塗布、含浸させることにより、コンクリートやモルタル内部の成分との化学反応により予期せぬ色の変化や斑紋、色ムラなどを作り出す染色液です。

塗料や顔料による人工的な色付けと異なり、焼物における窯変にも似た自然な風合いと色彩が得られます。コンクリートに着色する方法は、「塗料を使用する」と「顔料を使用する」の二種類の方法が一般的です。しかしステインクリートを使用する着色方法は、「塗る」というよりも「染める」という感覚に近い製品です。

特殊な色彩効果を得るため、2色以上のステインクリートを混ぜ合わせたり、1色目を施工後、乾く前に他の色を塗り重ねてグラデーション効果を狙ったり、塗布直後に水を垂らして滲ませたり、逆に水を垂らした部分に塗布する等の様々な使用方法が可能です。



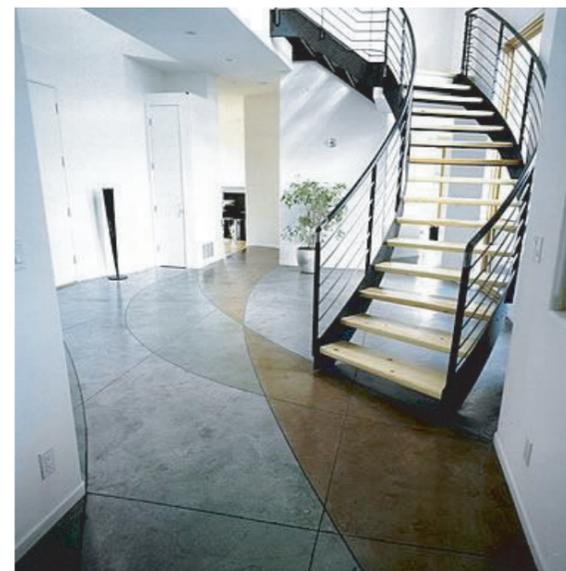
■ 用途

- ・美容室・レストランなどの商業店舗の床
- ・テーマパーク等・スタンプコンクリート
- ・モルタル造形等の着色
- ・その他、デザイン性、意匠性を重要視する屋内外の床及び壁面



SAMPLES

For Floor



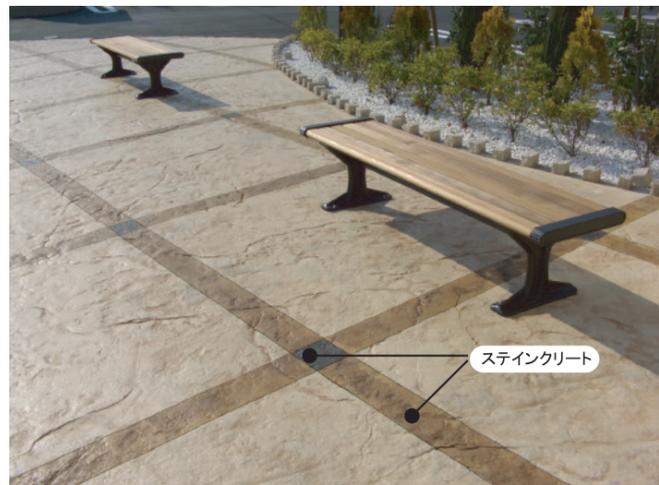
*写真は印刷物ですので実際の色合いとは異なって見える場合がございます。

ステインクリートXで染色されるのはコンクリートの極表層の部分のみです。歩行や通行により染色されたコンクリートの表層が摩耗されると下地が露出します。床面での使用の際にはトップコートを塗布し、定期的なワックス掛けなどによる定期的なメンテナンスを行うことをお勧めいたします。

SAMPLES

For Decoretive Concrete

ステインクリートXはスタンプコンクリートの着色やモルタル造形などの自然な着色にも活躍します。後施工で着色できるため、ポーターの色分けや部分着色などに便利です。



鋼製の橋の欄干をモルタル造形で化粧しステインクリートで着色しました。



ステインクリートでコンクリートを染めると木の風合いや自然な濃淡が簡単に再現できます。

脱型した板目の質感を損なわずに薄いグリーン色のコンクリートにしました。



*写真は印刷物ですので実際の色合いとは異なって見える場合がございます。

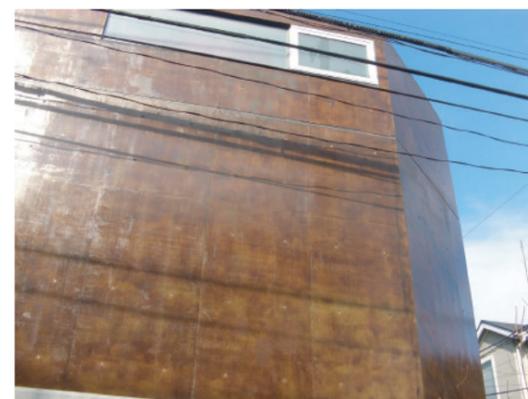
SAMPLES

For Wall

壁面にステインクリートXを採用していただいた事例。打放しコンクリートを「錆びた鉄板」のように見せるのが人気です。



デザイン住宅
設計監理：サボースデザインオフィス



賃貸併用住宅
設計監理：青山令建築設計事務所



新設のコンクリート2次製品の護岸を周りの景色に馴染むように意図的に少し汚れた風合いに着色しました。



ステインクリートXで染色されるのはコンクリートの極表層の部分のみです。歩行や通行により染色されたコンクリートの表層が摩耗されると下地が露出します。床面での使用の際にはトップコートを塗布し、定期的なワックス掛けなどによる定期的なメンテナンスを行うことをお勧めいたします。

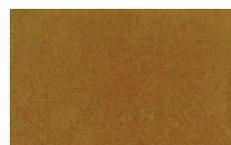
カラーバリエーション



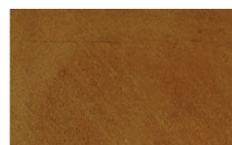
Evergreen



Blue di mare



Moss



Bronze



Sunset



Ebony



Saddle



Rusty brown

使用量

ステインクリートの使用量は下地の吸い込みや施工方法により大きく変わりますので、0.1~0.4kg/㎡を目安程度にお考えください。

施工方法

1. 試験施工

ステインクリートXはコンクリートやモルタルとの化学反応による染色工法です。施工対象のコンクリートやモルタルにより化学反応による染まり具合に差が生じます。目立たない部分で染まり具合を確認の上、本施工を行ってください。

2. 下地処理・清掃

打設後4週間以上経過し十分に乾燥したコンクリート・モルタルに対し、ステインクリートXが浸透しやすくするために、施工面の汚れ、油分、カビ、コケ、レイトランスなどは高圧洗浄機で除去し、十分に乾燥させます。

3. 周辺養生

ステインクリートXはコンクリートやモルタルに1日度でも触れると、即座に化学反応が始まり付いた色をとすことはできませんので、周辺養生を入念に行ってください。また、酸性溶液のため金属を腐食させるので金属部分は特に入念に養生を行ってください。

4. ステインクリートX塗布

次に施工面を噴霧器などを使用し水溜りができない程度に軽く水で濡らします。

これはいきなり施工面にステインクリートを塗布すると『焼け』と呼ばれる過剰反応が起きて極端に色が濃くなることを防ぐためです。

ステインクリートを噴霧器を使い施工面へ塗布・含浸させます。床面から50cm~1m程度離してノズルの先で円を描くように吹きつけ、吹きつけた部分の床がしっとりと濡れる程度まで噴霧します。噴霧すると直ちに化学反応が始まり「シュー」という音を立てます。



すぐに追っかけてナイロンブラシや左官刷毛、スポンジなどを使って施工面へ刷り込むように小さな円を描くように動かしながら塗り広げます。塗布にナイロンブラシや左官刷毛、スポンジなどを使用する際にも同様に円を描くように塗り広げます。この方法が色ムラが出にくい方法です。



この作業を隣へと隣へと続けていきますが先に塗ったステインクリートXが乾いたところに新しいステインクリートXを塗布するとはっきりと継ぎ目が出てしまいますので、継ぎ目が出ないように素早く連続的に行ってください。基本的には2回塗りです。

1回目の塗布後4時間以上の化学反応の時間を与えたのちに2回目のステインクリートを1回目と同様に塗布します。

1回目と2回目のステインクリートを異なる色で施工する場合には、1回目を水洗いしてから2回目を塗布します。そのまま8~12時間放置します。

5. 洗浄・中和処理

その後、施工面に残っているステインクリートを洗浄し、専用中和剤を施工面に噴霧し、ブラシ等でこすって染み込ませ、2~3分放置した後、十分な水で洗い流します。

6. トップコート塗布

施工面が十分に乾燥したら、各種トップコートを塗布して完成です。



【注意事項】

- ・ステインクリートXの取り扱いには、保護手袋（ゴム製）、保護眼鏡、長靴、長袖、長ズボン等を着用し作業を行ってください。
 - ・ステインクリートXは噴霧機、刷毛、スポンジなどを使用して施工します。噴霧機はオールプラスチック樹脂製のものをお使いください。金属製の部品があるものは腐食してしまいます。
 - ・若材令の下地の場合発色不良や着色不良が生じる場合がございます。打設後2週間程度以上の乾燥養生をお勧めいたします。
 - ・エマルジョンを使用したセメント系仕上げ材にはステインクリートXが含浸しにくい発色不良や着色不良が生じる場合がございます。
 - ・機械仕上げや光沢が出るまで押さえ込んだ金鏝仕上げの床面等はステインクリートXが含浸しにくい発色不良や着色不良が生じる場合がございます。
 - ・ステインクリートXは色の变化、斑紋、色ムラ等を積極的に作り出す材料です。色ムラの発生は特異な現象ではなくステインクリートXの通常現象です。
 - ・塗料ではありませんので下地の質感を隠蔽することはできません。これはステインクリートXの特徴とお考えください。
 - ・色彩効果は施工される下地の状態により変化しますので、色見本とは大幅に異なる場合がございます。これは特異な現象ではなくステインクリートXの普通現象です。よって色の詳細な指定はできません。
 - ・下地の乾燥状態や吸い込みの度合、施工環境等の様々な条件により色彩効果は変化しますので、できる限り現場での試験施工をお勧めいたします。その場合でも試験施工と本施工では同一にならず異なる場合がございます。これは特異な現象ではなくステインクリートXの普通現象です。
 - ・サンプル板も材料の性質上、色の保障をするものではありません。大まかな傾向を見る程度とお考えください。
- 上記の性質を充分にご理解いただいたうえでご採用ください。性質に納得がいけない場合には採用をお控えください。